



児童養護施設 合掌苑 〒501-4101 岐阜県郡上市美並町上田 674

電話 0575-79-2914

FAX 0575-79-3584

「施設改革と思い出」

合掌苑苑長 山口 薫

秋も深まり寒さが際立つ季節になってきました。子どもたちは元気に地域の学校に通い地域の子どもたちと一緒に遊び学び成長していきます。さて先日大阪で社会的養護の施設長研修があり参加してきました。国は平成 27 年度から 15 年間をかけて子どもの生活の場を、里親、グループホーム、施設各々に 3 分の 1 とする。という「家庭的養護の推進計画」を進めるため各施設と自治体にて取りまとめの作業を行っているところです。

合掌苑は平成 34 年ころを目標に苑舎の改築に取り組み、施設内の生活単位の更なる細分化、さらには地域に根ざしたグループホームでの生活が行えるように計画をしています。それに向けて職員の養育力の向上とチームワーク的働き方の取り組みを進めているところです。

国の事業を進めるにあたり施設の在り様が大きく変わっていくことに対しいくつかの期待と心配があります。ひとつは、虐待を体験した子どもが半数以上ということや何らかの障害を抱えて個別の支援が必要という子どもが多くなったというように施設にやってくる子どもが変わってきています。兄弟が少なく、物は多く与えられ、他人と分かち合うことを体験していないで育っている。つまり相手の気持ちになって考えることが少なく、与えられることが当たり前の生活が中心であったということ。

現在生活している子どもにとっては、小さな生活単位は家庭での生活の営みを目の前で見て体験していけるという点では、子どものニーズに沿った生活ができるという効果も期待できます。また、地域と近くなることで子育ての情報を伝えやすくなるが、そこで働く職員にとって仕事なのか家庭の親の養育なのか区別がつきにくくなるという問題もあります。

先日ある卒業生（30 年前の卒業生）が尋ねてくれました。そのころの自分の写真はないかということで見つけに来たのです。自分の育った場所や思い出が変わらずそこにあるということは一人の人間にとっては消え去ることのできない宝物です。私自身も倉庫の奥底に眠る写真を見て、懐かしい思いに浸るとともに合掌苑の長い歴史の中でこれほどたくさん子どもたちと泣き、笑い、苦しみながら生活して来たんだなあと再確認させられました。他にも、お世話になった苑に何か恩返しをしたいと訪ねてきてくれる卒業生もいます。苑を実家のように思って訪ねてくれる彼らのような子どもが帰ってこられる場所であることをうれしく思うとともに、小さな家に分散する生活形態になったときにそのような実家としての意味合いが残していけるのかと考えてしまいます。施設という生活の場は過去、現在、未来、さまざまな時代の子どもの思い出の場でありたい、生活を支えてくれた職員にとっても同じです。子どもの発達上や時代のニーズに沿った整備は必要と考えながらも思い出の場所を壊してしまうのではないかと迷う気持ちは常にあります。

苑として今後社会的ニーズに応えられる地域の子育て機関として整備を進め、地域に子育ての情報発信をすると共に参加を考えています。今の子どもたちはもちろん卒苑した子たちにも職員にも地域の方からも愛される、さらに思い出がたくさん詰まった合掌苑を目指して取組んで参ります。これからも地域の皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

家庭的養護実践記録

平成 26 年度より、より家庭的な小規模施設を目指して、本館・福祉館・かやのみ館の 3 棟を利用したグループケアを開始しました。半年経ってより家庭的な養護を実践している福祉館とかやのみ館の各リーダーにお話を伺いました。

福祉館 前期の生活を終えて



福祉館リーダー
佐藤

今年度から、より家庭的な養護が出来るように思い、今までとは大きく体制を変え、職員 3 名が子ども 5 名と共に福祉館での生活を始めました。振り返ってみると年度当初、今までとは変わった生活環境にワクワクと楽しい気持ちで生活を始めた子どもたちでしたが、その反面不安を抱える子もおり、子ども同士のトラブルも多かったように感じます。その度に福祉館のメンバーで集まり、みんながより良い生活をするにはどうしたらいいかを話し合ってきました。まだまだ変えていかなくてはいけない点は多々ありますが、少しずつ問題を解決し子どもも今の生活に慣れてきたと思います。また、子ども自身が福祉館のメンバーであることを意識し、棟でのチームワークが育つように、月に 1 回茶話会を開いたり子どもの誕生会を行ったりしています。夏のグループ旅行も福祉館のメンバーでの旅行となり、いい思い出になりました。旅行を決める時には子どもから福祉館のメンバーで行きたいという希望が出て、職員もなんだか嬉しかったです。

職員は綺麗で清潔な福祉館を目標に、毎日お母さんのように掃除をし、子どもへの支援をしてきました。出来るだけ綺麗な環境で生活してほしいと思い、積極的に子どもの部屋も整理しています。しかし、綺麗だった部屋が 2, 3 日経つと散らかり放題。その度に職員も非常にかがっかりしますが、すぐに身に付くものでもないと思い、繰り返し諦めずに支援しています。近い将来、職員の努力が報われることを願っています。

半年が経ち、福祉館で生活する子どもに、今年度の生活はどう？と聞いてみると、去年よりいいよ。と答えてくれます。子ども一人ひとりに関わる時間が増え、職員の願いである「家庭的な養護」が少しは子どもに伝わっているのではと思います。まだまだ課題もありますが、理想は高くもち、その理想に一步でも近づけるように子どもと共に成長していきたいと思っています。

かやのみ館 前期の生活を終えて



かやのみ館リーダー
河井

かやのみ館が、より家庭的な養護を目指すために小規模化され、4 ヶ月が経ちました。高校生 4 人、小中学生各 1 人の全部で 6 人の子どもと、3 人の職員。人数は少ないけれど、3 つのフロアにいた子たちの集団は、少しの遠慮と緊張ととまどい、プラス期待と楽しみから始まりました。和気藹々の中に、少しの思い違いがあったり、楽しげな会話に入って行けない子もいました。そんな中で月 1 回の茶話会を通じて、少しずつですがみんなの中に仲間としての意識も芽生えたように思います。茶話会の話し合いの中で、思うようにテレビが見えないと言う小中学生に対し、「自分たちも見ると録画しよう」と譲歩してくれる高校生。いやな誘いを断れないという子には「私たちが守ってやるから！」とも言ってくれました。さっきまで揉めていたのに、用を済ませて戻ってみると隣り合って座り一緒にテレビを見ていたなんてこともあります。ともに生活することによって、自然と姉妹のような感覚になったのでしょうか。単純に微笑ましいな、嬉しいなと思います。高 3 の女子が言っていました。「今年はみんなが何気に仲が良いし楽しい」と。小学生も「かやのみ館でよかった」と言ってくれました。気持ちは変化します。今日いいなと思っても、明日は絶対いやと思うかもしれません。でも、いろいろな気持ちを大切にしながら、話し合いと楽しい行事で乗り越えて行けたらなと思います。

今更ながら、5 つの学校と 5 つの学年。学校は同じでも学年が違う、学年は同じでも学校が違う子たちの提出物と行事にてんてこまいの 6 ヶ月でした。残り数ヶ月もきっと、バタバタするでしょう。でもみんなの明るい笑顔に元気をもらいながら頑張ろうと思います。

平成 26 年前期 合掌苑行事



18日 がらくた市

今年も地域との交流をとおして児童福祉の理解を広げることがを目的としてバザーや陶器市、ミニ動物園、遊戯室での腹話術などたくさんのお出し物をとおして交流を深めました。天候にも恵まれ、多くの方に来ていただきありがとうございました。今年初めたこ焼きの店が出店されました。大人気で絶え間なく行列が続いていました。がらくた市も大成功、大盛況で終わることができました。これもみなさまのご協力のおかげです。ありがとうございました。来年も開催しますので是非お越しください。



7日 父の日母の日みんなの日

子どもの日と母の日、父の日をまとめて6月の苑行事とし、子どもも職員もみんなが集まって楽しむ会を行いました。昼間は体育館を貸しきり、バレーやバスケット、フラフープなど子どもも大人も一緒になって汗を流して笑い合う楽しい時間を過ごしました。その後はラドンで豪華なご飯を食べ、ビンゴゲームをして大盛り上がり。夕食後には温泉でゆっくりと疲れを癒したり観劇を楽しんだり1日たっぷり楽しみました。子どもたちから職員に似顔絵とメッセージが描かれたメダルのプレゼントもあり、肩にかけてもらおうと日ごろの疲れがどこかに吹き飛びそうでした。今年度から棟ごとの生活が中心となり、棟どうしのかかわりが減っている中、合掌苑の全員で交流ができたという点でもとても有意義な会でした。



28日 釜ヶ滝流しそうめん招待

今年も滝茶屋さんから流しそうめんとマス釣り体験に招待していただきました。マス釣り体験は、毎年招待していただいているためみんなとても上手で、大きなマスをたくさん釣ることができました。マスを焼いてもらっている間に釜ヶ滝の見学にも行きました。岩がつるつる滑る中、大きい子が小さい子の手を引いてあげる、あたたかい姿がありました。滝の見学から帰ると、丁度マスも焼きあがっており、お腹がぺこぺこの子ども達の顔が思わずほころびます。自分で釣ったマスは一段とおいしくペロリと食べてしまい、一緒にいただいた五平餅は口のまわりに味噌をいっぱいつけながら、口いっぱい頬張っていました。

暑い夏にすずしい釜ヶ滝での流しそうめんはとてもおいしく子ども達も職員もモリモリ食べていました。毎年変わらず招待してくださり感謝してもしきれません。ありがとうございます。





6日 北師会

今年も北師会の方が来苑され、苑庭で流しそうめんを行いました。当日は夏らしい天気となり、子供たちは冷たい流しそうめんに大喜びで、たくさんあったそうめんもあっという間に食べ終えてしまいました。手打ちそばと釣ったばかりの鮎もごちそうになり、目の前で焼く鮎に興味津々で、鮎の周りに子供たちが集まる姿、手打ちそばが出てくるまでザルの前で楽しみそうに待っている姿もみられました。その後は北師会の方と一緒に苑庭でボール遊びを楽しみ、苑庭に子どもたちの笑い声が響き、夏のスタートにふさわしい行事になったと思います。ありがとうございました。



20日 かやのみ館担当会

待ちに待った、かやのみ館の担当会で帰省服の買い物兼お出かけに行ってきました。

女ばかりなのであーだこーだ言いながら時間をかけて自分に似合う服を買いました。(帰省まで待ちきれずその場で着替える子もいました(^_^;))

服の買い物をしてから本巢市のモレラに行きました。お昼ご飯はフードコートで好きな物を食べて、小学生と中学生の子は映画「思い出のマーニー」を見て、高校生の子たちはショッピングを楽しみました。

夕ご飯はかっぱ寿司でお腹いっぱい食べ、マーゴの湯で温泉に入り癒されて帰ってきました。



2~4日 三日里親

今年も、岐阜県三日里親事業が実施されました。今年で33回目になります。

合掌苑では、今回9家庭の里親さんに12名の子どもたちをお願いしました。子どもたちは、この三日里親を心待ちにしていました。子どもたちにとっては、里親さんと外出(各テーマパーク・映画・公園・花火大会・ショッピング、など)出来たこと、家庭では、一緒に料理を作ったことが楽しかったようです。里親さんにとっては、子どもと三日間どう過ごしてあげようかと家族で話し合ったり、子どもに要望を聞いたりして過ごされたとうかがいました。子どもたちに、いい思い出を作っただけでしたこと感謝いたします。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、岐阜県では里親さんを必要としている子どもたちのために里親さんを求めています。詳しくは子ども相談センターへ、今後ともよろしくお願ひします。



6日 ソフトボール大会

岐阜県児童福祉施設交流ソフトボール大会が8月6日に開催されました。昨年度は人数不足で参加できませんでしたが今年度は若松学園、白鳩学園と共に合同チームとして参加することができました。合掌苑からは2名の児童が参加しました。天候は曇りでしたが蒸し暑い感じでした。午前中に2試合を行いました。どちらも惜敗しました。午後の試合の途中、激しい通り雨があり、止んだもののグラウンドが使用できなくなり、そこで終了となりました。勝つことはできませんでしたがどの試合も子どもたちは必死に精いっぱいプレーをしていたと思います。今後も合掌苑でチームが組めない時は他施設と合同でも参加をしていきながら子どもたちの頑張る姿を応援していけたらよいと思います。



11～12日 福祉館グループ旅行

今年は福祉館の初グループ旅行です。南知多で海を楽しもう！と意気揚々と出かけましたが、台風の影響がずっと心配でした。しかし1日目はピッカピカの晴れ模様で旅行日和になりました。南知多グリーンバレイで自然と戯れ、大人も子供もフィールドアスレチックで汗かきながら、ワーキヤー叫んで楽しみました。夜はみんなでBBQです。火起こしから子どもたちが大活躍してくれました。知多牛に舌つづみした後、ビーチで花火大会をやりました。まさかのろうそくがなかった為、手持ち花火の火を点火し合いました。これもワーキヤー叫びながら楽しみました。2日目、まさかの朝から大雨が降る天気。海は諦めようと、南知多を去ろうと走り出したらまさかの晴れ模様！急きょビーチに繰り出し、もちろんワーキヤーしてはしゃぎました。帰りにえびせんの里へ寄り道して、たらふく試食もして、心も体もお腹も大満足の1泊2日の旅行になりました。そういえばスイカを持って行きながらも割り忘れてしまった旅行でもありました。

12日 プロ野球招待

中日・横浜戦を岐阜長良川球場に8名を招待して頂きました。地元出身の朝倉投手が先発し、球場全体がとても盛り上がっていました。子ども達は、野球は詳しくないですが、球場の雰囲気、熱気が凄かったと話していました。

中日ドラゴンズは負けてしまいましたが、期待の若手、高橋選手の場外ホームランは凄かったです。今後とも子ども達が楽しめる時間を大切にしていきたいと思います。

東新住建様ご招待ありがとうございました。



24日 本館担当会

夏休み最後の日曜日、本館担当会としてBBQをしました。卒苑生の方に作って頂いたデッキスペースを利用し、4時間ぐらいでしたが、子どもたちと、食事やディスカッションを楽しみました。日常生活では、食事作りをすることが殆んどないため、日頃、元気なわんぱく坊主も、火起し・焼肉・焼ソバ作りとタオルを頭に巻き大張切り、何とも頼もしい光景でした。本館は、4～17歳と年齢層の広い担当で、なかなか同じ空間で行動を共にすることが難しいのですが、この時は、普段会話をしない子ども同士の、触れ合いを見たり、わんぱく坊主から出た思わぬ言葉に職員が突っ込んだりと、楽しく有意義な時間を過ごしました。最後に、夏休みの反省をして学校始業への気持ちを高めました。



「温かい心」 (平成26年4月～平成26年8月)

合掌苑の苑児たちに沢山の方々から、温かいご支援を賜りました。略儀ながら紙面にお名前を掲載して御礼の言葉にかえさせていただきます。ありがとうございました。

NPO法人フラワーキャンドル	安養寺	石田 秀夫	一柳 芳之	上野 秀明	
永昌寺	エパタおばあちゃん	大島 哲夫	太田 岩雄	小川 明	
各務原市鶴沼民生委員	カネコ小島陶器(株)	加納 義正	釜ヶ滝 滝茶屋	北村 桂子	
協和事務機	国田 祐子	瀬瀬 隆生	幸兵衛窯	小坂 直樹	小酒井 美朗
小杉 智興子	佐橋 初美	左谷野 政和	澤村 則男	親切会中部支部	鷲見 明
武内 優子クリスティーナ	谷口 浩治	中日新聞岐阜支社	社会事業団	東進住建	
中島 登一	二宮 春美	のだみつ花店	橋本 ひろみ	橋本 実希	長谷部 弘
畑佐 和昭	林 徳子	ビッグスワン理美容業 合同会社	廣澤 綾子	福手 淳子	
古川 和夫	古田 義治	北辰寺	前畑(株)	松尾 栄・真由美	松森 久子
水野 富夫	武藤 義夫	村田 昇	村山 博嗣	山崎 美佐代	山松マツダ陶器
横山 輝美	連合岐阜	ロイヤル555郡上店	和田 友子	和田 学	
(株)井澤コーポレーション	(株)織部	(株)シヨクブン	(株)丸東	(株)ゆうちょ銀行	

★勝手ながら敬称を省略させていただきました。万一誤表記、掲載漏れがございましたら、なにとぞご容赦願います。



編集後記

ついこの間夏休みだと思っていたら、あっという間に時は過ぎ秋も終わりに近づきました。

日が落ちるのが早くなり、朝晩は寒いと感じる日が多くなりました。夏休みのことを思い出しながら、たよりを作成しましたが子どもたちはたくさんの行事があり、楽しい思い出ができた夏だったのではないのでしょうか。これも、日頃から苑を支えてくださっている皆様のお陰と感謝しております。

また、今年は天気や自然が猛威を振るっている印象です。台風の接近で長良川が増水し、郡上市内では通行止めになる所もありました。広島県では大きな土砂災害がありましたが、御嶽山の噴火といい被災された方々の悲痛な面持ち、行方不明になった家族・親族・友人を必死に探す姿、ニュースを見る度に心を締め付けられました。当たり前にあったものが壊れ、突然の別れを強いられる事故や災害はいつ来るかわかりません。だからこそ、当たり前前に生活できている「今」に感謝したいと思い、考えさせられました。